

# JSCR Newsletter



日本糖質学会会報  
JSCR Newsletter published by  
The Japanese Society of Carbohydrate Research

## 2023年度（第26回）日本糖質学会奨励賞 受賞者決定

日本糖質学会授賞選考委員 平林 淳  
佐藤 ちひろ  
鈴木 匡

本年度第26回日本糖質学会奨励賞が決定しましたのでお知らせします。

この度は糖質学会会員の皆様から優れた候補者の推薦をいただきありがとうございました。選考委員の厳正な審査を経て、理事会にて下記の3名を受賞者として決定いたしました。

受賞者には心からお祝いを申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を期待いたします。

なお、授賞式および受賞講演は第42回年会（鳥取）にて行う予定です。詳細が決まりましたらお知らせします。

### 奨励賞

今江 理恵子（東京都健康長寿医療センター）

ラミニン結合性  $\alpha$ -マンノース型糖鎖の生合成制御機構の解明

藤川 紘樹（(公財)サントリー生命科学財団 生物有機科学研究所）

精密合成を起点とした糖鎖機能解明研究

藤平 陽彦（理化学研究所 開拓研究本部・鈴木糖鎖代謝生化学研究室）

マウスを用いた細胞質糖鎖脱離酵素 NGLY1 の機能解明

(50音順、敬称略)

### CONTENTS

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| ■奨励賞 受賞者決定 平林淳・佐藤ちひろ・鈴木匡◎1       | ■糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟開所式 安藤弘宗◎6                        |
| ■第42回日本糖質学会年会 田村純一◎2             | ■理事会議事録 ◎8                                       |
| ■第42回日本糖質学会年会 レジェンド講演者のプロフィール ◎4 | ■理事・評議員・名誉会員・顧問・維持会員 ◎9                          |
| ■「令和5年度日本糖質学会総会」開催のお知らせ ◎5       | ■日本キチン・キトサン学会共催 伊福伸介◎11                          |
|                                  | ■Society for Glycobiology 年会 in Hawaii 共催 北島健◎12 |

## 第 42 回日本糖質学会年会

### 1. 開催日および場所

開催日 2023 年 9 月 7 日 (木) ~9 日 (土) (3 日間)  
開催場所 とりぎん文化会館 (鳥取県立県民文化会館)  
〒680-0017 鳥取市尚徳町 101-5

### 2. 主催者および組織

主催 日本糖質学会

代表者 第 42 回日本糖質学会年会

世話人代表 田村 純一 (鳥取大学 農学部・教授)

組織委員

世話人 (五十音順)

一柳 剛 (鳥取大・農)、伊福伸介 (鳥取大・工)、佐々木紀彦 (鳥取大・工)、  
田村純一 (鳥取大・農)、野上敏材 (鳥取大・工)、花島慎弥 (鳥取大・工)

Advisory Board (五十音順)

北川裕之 (神薬大・薬)、中北慎一 (香川大・医)、灘中里美 (神薬大・薬)、  
保坂善真 (九州大・農)、前田 恵 (岡山大・農)、三上雅久 (神薬大・薬)

連絡先・事務局：〒680-8553 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学 農学部

年会事務局 E-mail: [jscr42@ml.chembio.tottori-u.ac.jp](mailto:jscr42@ml.chembio.tottori-u.ac.jp)

### 3. 共催または後援団体など

共催： シアル酸研究会・セルロース学会・鳥取大学・日本応用糖質科学会・日本化学会・日本化学会  
中四国支部・日本キチン・キトサン学会・日本生化学会・日本薬学会

協賛： 高分子学会・繊維学会・有機合成化学協会

後援： 鳥取市観光コンベンション協会・とっとりコンベンションビューロー・日本ケミカルバイオロ  
ジー学会

### 4. 会議の目的：

日本糖質学会年会は、糖質に関連する化学、生物学、およびその融合領域である化学生物学が一堂に会  
する国内最大規模のもので、毎年各地域の糖質関連研究者が世話人となり開催しています。糖質研究は我  
が国の伝統的な研究領域で、日本の糖質研究者が世界で活躍する基盤がこの糖質学会年会で培われており  
ます。

第 42 回日本糖質学会年会 (鳥取) は対面形式で開催いたします。年会は参加者の出会いの場でありま  
す。発表の臨場感若い方にはかけがえのない経験と自信につながるはずですし、対面でのフロア活動は  
欠かせません。会期は 3 日間とし、会員の皆様の発表機会を十分に確保し、口頭発表 (三会場)、ポスタ  
ー発表と、奨励賞受賞講演、優秀講演賞第 2 次審査、およびダイバーシティ推進講演を実施します。加え  
て伊藤幸成先生と遠藤玉夫先生によるレジェンド講演を行います。例年通り、関連の企業様には展示やラ  
ンチョンセミナーをお願いいたしました。懇親会とエクスカージョンも行います。相互のコミュニケー  
ションの場としてご利用ください。鳥取での年会が皆様の研究活動のご発展の一助となれば幸甚です。山陰・  
中国地方での初めての開催となります第 42 回日本糖質学会年会をお楽しみいただけるよう、世話人会の  
総力をあげて準備を進めてまいります。また、年会開催前日まで同じ会場で大会を開催される日本キチン・  
キトサン学会との市民開放型共同シンポジウムを 9 月 6 日夕刻に開催することといたしました。関連の最  
新研究動向の調査や異分野交流の良い機会として参加をご検討ください。

2023 年 5 月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が 5 類に移行され、かつての人の流れに戻ると  
期待される一方で第 9 波も予想されており、予断を許さない状況です。感染症の流行状況によってはオン  
ライン開催への変更の可能性がありますことをお含みおき下さい。年会の最新情報は、以下の年会 HP に  
掲載しております。

<https://sites.google.com/tottori-u.ac.jp/jscr42>

## 5. プログラム概要

## 【年会の構成】

## ① プログラム・セッション

一般口頭発表A、B、ポスター発表、奨励賞受賞講演、優秀講演賞第2次審査、ダイバーシティ推進講演、レジェンド講演、ランチョンセミナー、企業展示、懇親会、エクスカーション

## ② 講演要旨集

講演およびポスター発表のプログラムと要旨集を作成

## 【主要題目】

糖質の化学、糖質の生化学、糖質の構造生物学、糖質の化学生物学、糖質の材料科学、糖質の反応/計算科学、糖鎖研究の医療・産業応用、糖鎖研究とバイオインフォマティクス

## 【日程表】

年会日程	午 前	昼休み	午 後
9月7日 (木)	優秀講演賞第2次審査、口頭発表	評議員会	総会、奨励賞受賞講演、口頭発表
9月8日 (金)	口頭発表、ポスター討論 (前半)	ランチョンセミナー	レジェンド講演、エクスカーション、懇親会
9月9日 (土)	ダイバーシティ推進講演、口頭発表		口頭発表、ポスター討論 (後半)

- 9月5日(火)～6日(水)に日本キチン・キトサン学会が、とりぎん文化会館で開催されます。
- 9月6日15:00~18:00に日本キチン・キトサン学会との共同シンポジウムを、とりぎん文化会館で開催します。詳細は年会HPをご覧ください。
- 予定は変更されることがあります。

## 【発表申込】

2023年5月1日から6月30日です。詳細は年会HPをご覧ください。

## 6. Carbohydrate Research ポスター賞

従来の35歳以下(7月1日時点)を対象とした日本糖質学会ポスター賞に加えて、本年度の年会世話人会で36歳以上(7月1日時点)を対象とするCarbohydrate Research誌(エルゼビア)がスポンサーとなるポスター賞を設けました。初の試みですが、奮ってご応募ください。

## 7. 参加登録料

日本糖質学会名誉会員	無料
日本糖質学会永年会員	3,500円(4,500円)
日本糖質学会正会員	7,000円(9,000円)
日本糖質学会学生会員	2,000円(4,000円)
非会員(一般)	9,000円(11,000円)
非会員(学生)	3,500円(4,000円)

※カッコ内は2023年8月1日以降の参加登録料です。

※共催学会会員は日本糖質学会会員と同額の参加登録料です。

## 8. 託児室について

会期中、会館内に託児施設を開設予定です。詳細はHPをご覧ください。

## 9. エクスカーション: 9月8日(金)午後(事前登録にご協力ください)

梨狩りと砂像鑑賞(砂の美術館): 詳細は年会HPをご覧ください。

10. 懇親会：9月8日（金）夜（事前登録にご協力ください）  
詳細は年会 HP をご覧ください。  
鳥取空港コナンホール（〒680-0947 鳥取市湖山町西 4-110-5）  
TEL：0857-28-1402（代表）

## 第 42 回日本糖質学会年会 レジェンド講演者のプロフィール

遠藤 玉夫（えんどう たまお）先生

遠藤玉夫先生は、1977年3月に東京大学薬学部製薬化学科をご卒業になり、直ちに同大学大学院薬学研究科に進まれました。その後、1984年から東京大学医科学研究所助手、1994年から東京都老人総合研究所室長、2005年4月から東京都高齢者研究・福祉振興財団・東京都老人総合研究所研究部長、2009年4月から東京都健康長寿医療センター研究所研究部長、2012年4月から同研究所副所長、2017年7月から所長代理を歴任され、2019年4月からシニアフェローに就かれました。現在も JCGG 会長、日本筋学会理事、日本学術会議会員など、多くの学会・会議の要職に就かれておられますが、とりわけ 2011年7月～2013年6月には会長として本学会の発展に寄与していただきました。遠藤先生のご研究は、福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明と新しい糖鎖の発見に集約されます。遠藤先生の研究成果は国内外で高く評価され、2002年11月に東京都知事賞、2003年3月に日本薬学会学術振興賞、2007年1月に朝日賞、2017年3月に日本学士院賞を受賞されておられます。

伊藤 幸成（いとう ゆきしげ）先生

伊藤幸成先生は、1977年3月に東京大学薬学部をご卒業になり、直ちに同大学大学院薬学研究科に進まれました。マサチューセッツ工科大学において2年間博士研究員を経たのち、1984年4月から理化学研究所研究員に就かれました。また、1991～1993年に米国 Cytel 社と Scripps 研究所にて訪問研究員として研鑽を積まれました。1996年8月に理化学研究所副主任研究員、1998年12月から主任研究員として細胞制御化学研究室を主宰されました。2020年4月から理化学研究所名誉研究員、現在は大阪大学大学院理学研究科 特任教授とされています。これまで多くの学会の要職に就かれておられますが、とりわけ 2013年7月～2015年6月には日本糖質学会会長として本学会の発展に寄与していただきました。伊藤先生は、複合糖質、とりわけ糖タンパク質研究のトップランナーとして、世界を牽引して来られたことは皆様ご承知のところ です。伊藤先生のご研究は国内外でたいへん高く評価され、1993年3月に日本農芸化学奨励賞、2008年7月に ICO Whistler 賞、2012年2月に日本農芸化学会賞、2017年1月に有機合成化学会賞、2021年8月に ACS Hudson Award を受賞されておられます。

## 「令和5年度日本糖質学会 総会」開催のお知らせ

会員各位

日本糖質学会  
会長 石田 秀治

令和5年度通常総会を下記要領で開催いたします。  
万障お繰り合わせの上、ご参集くださるようお願い申し上げます。

## 記

日時：2023年9月7日(木) 13:00～

場所：とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）（〒680-0017 鳥取市尚徳町 101-5）

議題：1) 報告事項

- ① 会員数の推移
- ② 会議の開催
- ③ JSCR Newsletter の発行
- ④ 令和5年度・令和6年度年会
- ⑤ 第26回日本糖質学会奨励賞・第4回優秀講演賞・第24回ポスター賞
- ⑥ ホームページの作成

2) 審議事項

- ① 令和4年度収支決算ならびに監査報告
- ② 令和5年度予算
- ③ 名誉会員・永年会員の推戴

3) その他の議案及び報告事項

## 糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟開所式ならび ヒューマングライコームプロジェクト特別シンポジウム 2023

東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所 安藤弘宗

去る令和5年5月15日に東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟の開所式ならびにヒューマングライコームプロジェクト特別シンポジウム2023が開催されました。岐阜研究棟の建設は、文部科学省の補助金の支援を得て、令和3年10月に着工し、令和5年1月31日に無事に竣工に至りました。延べ床面積約4300㎡の地上7階建てで、南の夜窓からは岐阜城と金華山そして街明かりを望める好位置にあります。1階には100名規模のセミナーが可能な集会室 (Glyco Hall) があり、このホールは、四つの小集会室 (N、O、GSL、GPI) に分割することも可能です。また、同階には、糖をイメージした六角形のセミナー室 (Sia、Glc) も備えています。3階から6階までが研究室のフロアーであり、3階にはイメージングの鈴木グループ、4階には化学合成の安藤グループ、5階には生化学・分子生物学の木塚グループ、藤田グループ、6階には構造解析の中嶋グループ、Guérardel グループの居室と実験室があります。7階には、マウスの飼育施設と動物実験室が設置されています。ヒューマングライコームプロジェクトが推進するミッションの内、「ヒト疾患関連糖鎖カタログ」「糖鎖生合成アトラス」の確立に関わる糖鎖構造ならび糖鎖生合成酵素の網羅的解析を岐阜研究棟で進めています。開所式は、文部科学省、岐阜県、岐阜市、関係機関からの来賓と東海国立大学機構の関係者合わせて54名の出席の下で執り行われました。続いて、研究所の内覧会が行われ、各PIより岐阜研究棟での研究内容と研究設備についての紹介がされました。

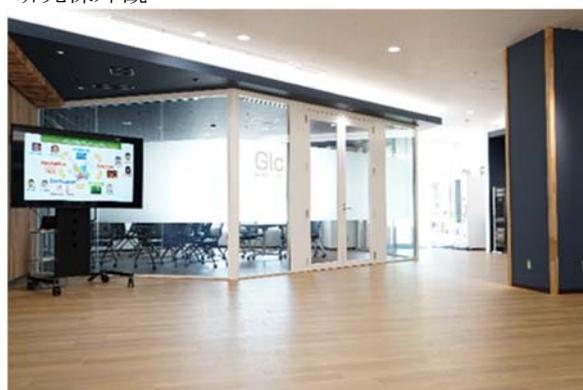
開所式・内覧会に続いて、ヒューマングライコームプロジェクト特別シンポジウム2023が岐阜大学の講堂にてハイブリッド形式で開催されました。ヒューマングライコームプロジェクト (英語名: Human Glycome Atlas Project, 略称: HGA) が令和5年度より文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業として本格的に始動することを受け、今回のシンポジウムは、第一部ではプロジェクトの紹介として、門松健治プロジェクト代表、井本敬二自然科学研究機構理事、西原祥子創価大学糖鎖生命システム融合研究所所長からの挨拶、平林淳プロジェクトマネージャーによる概要説明が行われました。第二部では、秋吉一成先生 (京都大学大学院医学研究科) より「未来を創るグライコサイエンス: 材料科学とのシナジー」と題して、糖鎖のポテンシャルを巧みに利用した材料創製の最先端のご研究と糖鎖科学の将来についてお話しいただきました。次に Morten Thaysen-Andersen 先生 (Macquarie University、東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所) からは「New Opportunities as Glycoscience Enters the Glycoproteomics Era」と題して、同氏

が代表を務められている Human Glycoproteomics Initiative (HGI) の活動を中心にお話しいただきました。最後に特別講演として遠藤玉夫先生 (東京都健康長寿医療センター) にご登壇いただき「糖鎖の織りなすダイバーシティ: その先にあるもの」というご演題で、老化と糖鎖、疾患と糖鎖に関わるご研究についてお話しいただき、最後に生命科学の重要な基礎研究としてのHGAへの期待を込めた応援のメッセージを頂きました。現地での参加が約140名、オンラインでの参加が約170名となり、300名を越える方々にご参加いただき、盛況裡に終わることができました。ご講演いただいた先生方、ご参加の皆様がこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

iGCOREは我が国の糖鎖研究のさらなる発展に資する共創の場としての役割を果たすことを目指しており、岐阜研究棟もその一翼を担います。今後ともよろしく願い申し上げます。最寄り駅 (岐阜駅) から遠いのが難点なのですが、お近くにお越しの際は気軽にお立ち寄りください。



研究棟外観



研究棟1F セミナー室 Glc



シンポジウム集合写真

**令和 5 年度役員(任期 2023. 7. 1~2024. 6. 30)**

理事 安藤 弘宗

梶原 康宏

加藤 晃一

蟹江 治

北島 健

北爪 しのぶ

佐藤 ちひろ

鈴木 匡

藤本 ゆかり

松尾 一郎

監事 石田 秀治

深瀬 浩一

蟹江 治 東海大学工学部

鎌田 佳宏 大阪大学大学院医学系研究科

亀井加恵子 京都工芸繊維大学分子化学系

亀山 昭彦 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門

川崎 ナナ 横浜市立大学大学院生命医科学研究科

川島 博人 千葉大学大学院薬学研究院

北岡 本光 新潟大学農学部

北川 裕之 神戸薬科大学薬学部

北島 健 名古屋大学糖鎖生命コア研究所

北爪しのぶ 福島県立医科大学保健科学部

木塚 康彦 岐阜大学糖鎖生命コア研究所

木下 聖子 創価大学理工学部

顧 建国 東北医科薬科大学分子生体膜研究所

佐藤あやの 岡山大学学術研究院

佐藤 武史 長岡技術科学大学生物系

佐藤ちひろ 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・生命農学研究科

篠原 康郎 金城学院大学薬学部

島本 啓子 公益財団法人サントリ一生命科学財団

清水 史郎 慶應義塾大学理工学部応用化学科

清水 弘樹 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門

須貝 威 慶應義塾大学薬学部

鈴木 匡 理化学研究所開拓研究本部

高橋 素子 札幌医科大学医学部

竹内 英之 静岡県立大学薬学部・大学院薬学研究院

竹川 薫 九州大学大学院農学研究院

武田 陽一 立命館大学生命科学部

竹松 弘 藤田医科大学医療科学部

館野 浩章 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門

田中 克典 理化学研究所開拓研究本部

田中 浩士 東京工業大学物質理工学院

田村 純一 鳥取大学農学部

千葉 靖典 産業技術総合研究所生命工学領域

榎谷内 晶 創価大学理工学研究科

戸嶋 一敦 慶應義塾大学理工学部

戸谷希一郎 成蹊大学理工学部

豊田 英尚 立命館大学薬学部

豊田 雅士 東京都健康長寿医療センター研究所

中川 優 名古屋大学糖鎖生命コア研究所

中北 慎一 香川大学医学部総合生命科学講座

中野 博文 愛知教育大学自然科学系化学

中の三弥子 広島大学大学院統合生命科学研究科

長束 俊治 新潟大学理学部

西島 謙一 名古屋大学大学院生命農学研究科

西村紳一郎 北海道大学大学院先端生命科学研究院

野上 敏材 鳥取大学学術研究院工学系部門

野中 元裕 京都大学大学院医学研究科

羽田 紀康 東京理科大学薬学部

**評議員 (任期 2023. 7. 1~2024. 6. 30)**

相川 京子 お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系

赤井 昭二 女子栄養大学応用有機化学研究室

芦田 久 近畿大学生物理工学部

荒田洋一郎 帝京大学薬学部

安藤 弘宗 岐阜大学糖鎖生命コア研究所

池田 義孝 佐賀大学医学部

池原 譲 千葉大学医学部

石田 秀治 岐阜大学応用生物科学部・糖鎖生命コア研究所

石水 毅 立命館大学生命科学部

和泉 雅之 高知大学理工学部

板野 直樹 京都産業大学生命科学部

一柳 剛 鳥取大学農学部

糸乗 前 滋賀大学教育学部

井原 義人 和歌山県立医科大学医学部

上村 和秀 中部大学生命健康科学部

大海 雄介 中部大学生命健康科学部

大谷 克城 酪農学園大学農食環境学群

大坪 和明 熊本大学大学院生命科学研究部

大橋 貴生 摂南大学理工学部生命科学科

岡 昌吾 京都大学大学院医学研究科

岡島 徹也 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・医学系研究科

越智 里香 高知大学教育研究部

柿崎 育子 弘前大学大学院医学研究科

笠原 浩二 東京都医学総合研究所細胞膜研究室

梶原 康宏 大阪大学大学院理学研究科

梶本 哲也 立命館大学薬学部

片山 高嶺 京都大学大学院生命科学研究科

加藤 敦 富山大学附属病院薬剤部

加藤 啓子 京都産業大学生命科学科

加藤 晃一 自然科学研究機構生命創成探究センター

金川 基 愛媛大学大学院医学系研究科

金森 審子 東海大学工学部

花島 慎弥 鳥取大学工学部  
 濱村 和紀 愛知学院大学歯学部薬理学講座  
 原田陽一郎 大阪国際がんセンター研究所  
 東 伸昭 星薬科大学薬学部  
 比能 洋 北海道大学大学院先端生命科学研究院  
 平井 剛 九州大学大学院薬学研究院  
 深瀬 浩一 大阪大学大学院理学研究科  
 藤田 盛久 岐阜大学糖鎖生命コア研究所  
 伏信 進矢 東京大学大学院農学生命科学研究科  
 藤本ゆかり 慶應義塾大学理工学部  
 藤山 和仁 大阪大学生物工学国際交流センター  
 古川 潤一 名古屋大学糖鎖生命コア研究所  
 北條 裕信 大阪大学蛋白質研究所  
 保坂 善真 九州大学大学院農学研究院  
 細野 雅祐 東北医科薬科大学分子認識学教室  
 前田 恵 岡山大学大学院学術研究院  
 松尾 一郎 群馬大学大学院理工学府  
 松岡 浩司 埼玉大学大学院理工学研究科  
 松野 健治 大阪大学大学院理学研究科  
 松原 輝彦 慶應義塾大学理工学部  
 眞鍋 史乃 星薬科大学薬学部  
 萬谷 博 東京都健康長寿医療センター研究所  
 三浦 佳子 九州大学大学院工学研究院  
 水野 真盛 (公財)野口研究所糖鎖有機化学研究室  
 三苫 純也 九州保健福祉大学生命医科学部  
 宮西 伸光 東洋大学食環境科学部  
 三善 英知 大阪大学大学院医学系研究科  
 門出 健次 北海道大学大学院先端生命科学研究院  
 矢木 宏和 名古屋市立大学大学院薬学研究科  
 矢部 富雄 岐阜大学応用生物科学部・糖鎖生命コア研究所  
 山口 拓実 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科  
 山口 真範 和歌山大学教育学部  
 山口 芳樹 東北医科薬科大学分子生体膜研究所  
 山地 俊之 国立感染症研究所細胞化学部  
 山田 一作 公益財団法人野口研究所糖鎖情報科学研究室  
 山田 修平 名城大学薬学部・病態生化学研究室  
 湯浅 英哉 東京工業大学大学院生命理工学研究科  
 吉田 雪子 東京都医学総合研究所エビデンス・ロジック  
 渡辺 秀人 愛知医科大学分子医科学研究所

## 名誉会員

池中 徳治 石戸 良治 伊東 信  
 伊藤 幸成 稲津 敏行 遠藤 玉夫  
 小川 智也 小川 温子 笠井 献一  
 川寄 敏祐 木曾 真 木下 タロウ  
 木全 弘治 楠本 正一 木幡 陽  
 鈴木 明身 鈴木 邦彦 鈴木 茂生  
 鈴木 康夫 隅田 泰生 谷口 直之  
 成松 久 西原 祥子 橋本 弘信  
 長谷 純宏 古川 鋼一 村松 喬  
 山形 達也 山本 憲二

## 顧問

一島 英治

## 維持会員

KHネオケム(株)  
 (一財)杉山産業化学研究所  
 (株)スディックスバイオテック  
 住友ベークライト(株)  
 生化学工業(株)  
 DSP五協フード&ケミカル(株)  
 東京化成工業(株)  
 長良サイエンス(株)  
 (公財)野口研究所  
 (株)伏見製薬所  
 松谷化学工業(株)  
 (株)ヤクルト

## 第 37 回日本キチン・キトサン学会大会

## 1. 日本糖質学会会員の皆様へ

第 37 回日本キチン・キトサン学会大会（鳥取大会）運営委員長を仰せつかります鳥取大学の伊福です。鳥取県での開催は第 27 回日本キチン・キトサン学会大会（第 10 回アジア太平洋キチン・キトサンシンポジウムとの併催）以来、10 年ぶりの開催です。なお、鳥取県境港市はキチンキトサンの主原料のベニズワイガニの漁獲量が全国一です。

今回の特徴として日本糖質学会年会（世話人代表：田村純一教授）との併催が挙げられます。キチン・キトサンが 5～6 日、糖質学会が 7～9 日です。関連物質の最新研究動向の調査や異分野交流の良い機会として、本大会の参加もご検討頂ければ幸いです。9 月 6 日夕刻に市民開放型の共同シンポジウムの共同開催も計画しています。単糖と多糖の融合研究推進のネットワークキングの場としてご活用頂けると幸いです。

キチン・キトサンは甲殻類の外皮を構成するアミノ多糖です。豊富な資源量を誇りながら、いまだ規模に見合う利用が進まない「最後のバイオマス」と言われています。一方で多様な生理機能が知られ、健康食品や医用材料としての実績があります。そのため、医、農、工、薬、獣医など多彩な分野の専門家がキチン・キトサンを研究対象に集うのが当学会コミュニティの特徴です。

## 2. 開催日および場所

開催日 2023 年 9 月 5 日（火）～6 日（水）（2 日間）

開催場所 とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）

〒680-0017 鳥取市尚徳町 101-5

大会 HP : <https://sites.google.com/tottori-u.ac.jp/jccrs37>

## 3. 主催者および組織（代表者／連絡先）

主催 日本キチン・キトサン学会

代表者 第 37 回日本キチン・キトサン学会大会運営委員長 伊福 伸介

鳥取大学 大学院工学研究科 化学・生物応用工学専攻

〒680-8552 鳥取市湖山町南 4 丁目 101 番地

E-mail: [sifuku@tottori-u.ac.jp](mailto:sifuku@tottori-u.ac.jp)

## 4. 併催、共催または後援団体など（いずれも申請中のものを含みます）

併催： 第 42 回日本糖質学会年会と同会場にて併催いたします

共催・協賛： 日本化学会、日本生化学会、日本生物工学会など

## 5. プログラム概要

一般口頭発表、ポスターセッション、企業展示、特別講演、特別セッション、受賞講演

日本糖質学会との共同シンポジウム（6 日夕刻）

## 6. 参加登録料

参加費：日本糖質学会会員 4,000 円（当日受付 5,000 円）

学生 2,000 円（当日受付 3,000 円）

一般 5,000 円（当日受付 6,000 円）

## 7. 懇親会： 9 月 5 日（木）夜

ホテルモナーク鳥取（〒680-0834 鳥取県鳥取市永楽温泉町 4 0 3）

TEL : 0857-20-0101（代表）

## Society for Glycobiology 年会 予告

**名称** Glycobiology 2023: Transformative advances in the biological functions of glycans  
**会期** 2023年11月5日(日)～8日(水)  
**会場** Hilton Waikoloa Village Resort Big Island (The big island of Hawaii, USA)  
**主催** Society for Glycobiology 組織委員会  
**共催** 日本糖質学会  
**ホームページ** <https://www.glycobiology.org/2023-annual-meeting>  
**日本糖質学会ホームページ** <http://www.jscr.gr.jp>

### 実施概要

本年2023年11月に米国ハワイにおいて2023年Society for Glycobiology (SfG) Annual Meetingが日本糖質学会の共催で開催されます。日本糖質学会とSfGは、過去においても2004年と2014年にハワイにて日米共同年会を開催しており、友好関係を継続してきました。2023年の今回は共同開催ではありませんが、共催ということで8つあるセッションのひとつを「Glyco-Stream from Zipangu」という題目で日本糖質学会が担当します。

会議への登録や要旨締切などの詳細は7月以降にアナウンスされると思いますので、まずは、参加のご予定をお願い致します。

### 主要セッション

- Glycobiology of Cancer
- Glycans in Infection and Immunity
- Glycopathologies
- Glycans in Cell Biology
- Glycans in Development and Homeostasis
- Glycotechnology and Applied Glycobiology
- Glycobiology Down Under, Guest Session sponsored by the Australian Glycoscience Society
- Glyco-Stream from Zipangu, Guest session sponsored by the Japanese Society of Carbohydrate Research

主要セッションの他にも、Trainee Mentoring Programおよび次の2つのSatellite scientific sessionsが初日に開催されます。

- Satellite I : NCFG - Tools in Glycoscience
- Satellite II: Glyco in Biotechnology

### その他

参加登録料、懇親会、宿泊案内は、年会専用および日本糖質学会ホームページに掲載されます。

### 問合せ先

日本糖質学会担当:  
石田 秀治 (岐阜大学糖鎖生命コア研究所)  
北島 健 (名古屋大学糖鎖生命コア研究所)  
Tel : 052-789-4297 Fax : 052-789-5228  
E-mail: [kitajima@agr.nagoya-u.ac.jp](mailto:kitajima@agr.nagoya-u.ac.jp)

JSCR Newsletter (日本糖質学会会報) Vol. 27, No. 1

2023年6月28日 発行

編集兼発行 日本糖質学会

会長 石田 秀治

〒103-0014 中央区日本橋蛸殻町1-38-12

油商会館3F

TEL: 03-5642-3700

FAX: 03-5642-3714

JSCR Newsletter 編集委員会

本家 孝一

蟹江 治